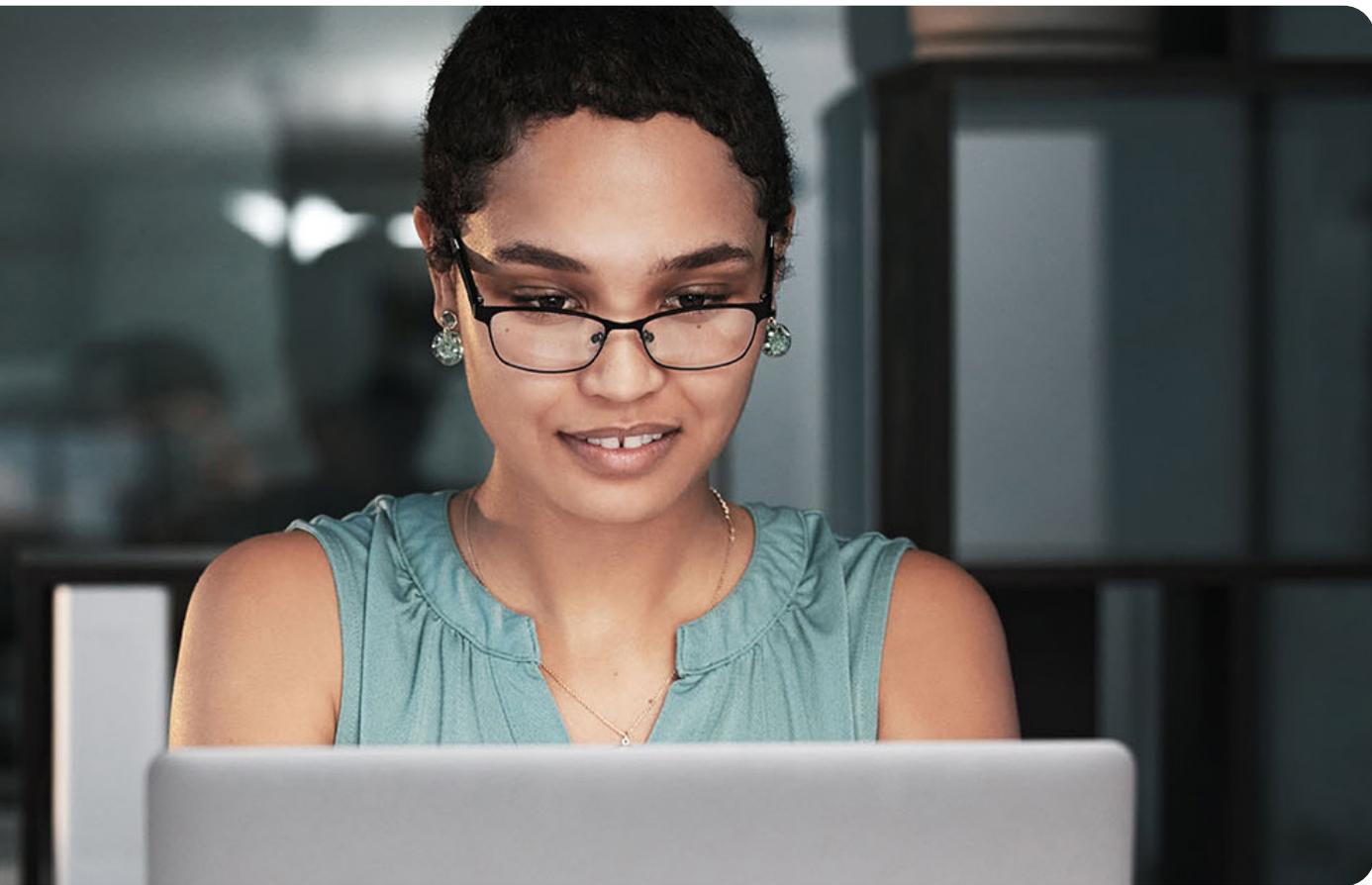


ISC2TM

受験者向け情報案内





目次

認定資格について	1
資格取得を勧める理由 新たな自分へと進化できる	1
自分に合った認定資格の選び方	2
経験時間の計算方法:	5
考慮すべきこと	6
退役軍人の給付金	6
ISC2候補者になる.....	6
補足文献	6
テストセンター	7
インドの受験者の方.....	7
試験のポリシーと手順.....	7
受験時における特別な便宜の申請.....	7
試験について	9
試験の形式と採点	9
試験問題の再確認	10
高機能試験問題タイプ (AIT: Advanced Item Types)	10
代替試験問題形式.....	10
類似試験問題	10
試験の申込み方法	11
お問い合わせ先	11
ISC2試験当日までの準備	12
試験の予約変更またはキャンセル.....	12
遅刻または欠席	12
テストセンターに持参するもの	13
ネームマッチングポリシー	15
テストセンターに持ち込んではいけないもの	15
試験当日	16
受付プロセス	16
秘密保持契約書	16
試験補助と休憩.....	17
試験環境	17
試験の終了	17
技術的問題.....	18
結果報告	19
結果を受け取る	19
試験の不正と結果の無効化	19
再受験ポリシー	20



ISC2試験の採点に関するよくある質問	21
コンピュータ適応型試験	24
CATに関するよくある質問	24
認証資格取得までの道のり	30
認証申請	30
申請期限	31
ISC2 Code of Ethics (倫理規約) に同意する	31
初回年間維持費を支払う	32
認証資格の維持	33
Continuing Professional Education (継続専門教育)	33
ISC2 CPEクレジットと活動の管理	33
年会費 (AMF: Annual Maintenance Fee)	33
認定メンバーのAMF	33
ISC2アソシエイトのAMF	33
再認定要件	34
ISC2会員資格の特典	35
認証と会員資格の価値	35
比類のない会員特典	35
専門能力養成	36
CPEの機会	36
会員資格の管理	36
参加、ボランティア、成長	37
割引、特典、リソース	37
その他の情報	38
法務関連情報	38
お問い合わせ先	38
ISC2受験者サービス	38
ISC2米国	38
ISC2アジア太平洋地域	38
ISC2ヨーロッパ、中東およびアフリカ	38



認定資格について

サイバーセキュリティのスキルは、かつてないほど求められています。しかし最近では、知識や経験、スキルだけでは十分とは言えません。雇用側は、自分たちが求めている専門知識を候補者が有しているという証明を求めています。さらに、サイバーセキュリティ認定資格があり、最新の脅威や技術に対応できるよう、絶えずスキル向上を追求しているかどうかも知りたいと考えています。サイバーセキュリティ認定資格の世界的リーダーであり、業界のゴールドスタンダードとして知られるISC2を通じて、ご自身のスキルを証明しませんか？

資格取得を勧める理由 新たな自分へと進化できる

当社の認定資格を取得すると、次のようなメリットがあります：

- 当該分野のリーダーであり、エキスパートであるという確かな証明になる。
- 希望の求人に対して、他の候補者と差別化を図ることができる。
- 長年の努力で得た知識とスキルを証明できる。
- ISC2の会員資格を取得し、サイバーセキュリティのオピニオンリーダーたちが集う独自のコミュニティで、協力し合いながら技術を磨くことができる。
- 仲間同士のネットワーク、メンタリング、教育ツール、グローバルリソースなどに内部からアクセスできる。自分自身を成長させ、挑戦することができる。ISC2は、皆さんのようなプロフェッショナルが、キャリアを通じて学び、認定を受け、成長できるよう最前線で支援しています。
- セキュリティの脅威に真正面から立ち向かう力、教育、ネットワークシステムが手に入る。





自分に合った認定資格の選び方

- **CISSP (Certified Information Systems Security Professional)** : CISSPは、サイバーセキュリティ戦略を理解し、実践的な実装を行ううえで必要となる知識、スキル、能力を備えたサイバーセキュリティのリーダーを認定する資格です。組織の全体的なセキュリティ態勢を設計、開発、管理する知識や経験があることを証明できます。
 - **必要な経験**: 受験者は、現行のCISSP試験概要に記載されている8つのドメインのうち2つ以上において、フルタイムで累積5年以上の実務経験を有している必要があります。コンピュータサイエンス、情報技術 (IT) または関連分野の高等教育機関の学位 (学士号または修士号) を取得している場合は、必要とされる経験を最大1年満たすことができます。または、ISC2のリストにある認定資格を追加取得することで、必要な経験の最大1年を満たすことができます。免除される経験期間は、1年間のみとします。パートタイムやインターンシップも経験要件にカウントできます。
- **CC (Certified in Cybersecurity)** : サイバーセキュリティの基盤となる認定資格であり、取得者がサイバーセキュリティの分野で実りあるキャリアを築くことができるように設計されています。このエントリーレベルの認定を取得すると、雇用主に対して、初級または基礎レベルのサイバーセキュリティの職務に必要な基礎知識、スキル、能力を示すことができます。業務を通じて学び、成長しようとする意欲と能力を証明します。
 - **必要な経験**: 受験にあたり、前提条件は特に設けていません。基本的な情報技術 (IT) の知識があることが推奨されます。サイバーセキュリティに関する実務経験や、正式な学歴、学位は問いません。
- **CCSP (Certified Cloud Security Professional)** : CCSPは、クラウドセキュリティのアーキテクチャ、設計、運用、サービスオーケストレーションにベストプラクティスを適用するための知識、スキル、能力を持つ情報技術 (IT) およびサイバーセキュリティのリーダーを認定する資格です。
 - **必要な経験**: 受験者は、情報技術 (IT) において、フルタイムで累積5年以上の実務経験を有している必要があります。サイバーセキュリティ分野で3年間、現行のCCSP試験概要の6つのドメインのうち1つ以上の分野で1年間の経験が必要です。コンピュータサイエンス、IT、または関連分野の高等教育機関の学位 (学士号または修士号) を取得している場合は、必要とされる経験を最大1年満たすことができます。CSAのCCSK認定資格を取得している場合は、1年間の経験に代替できます。免除される経験期間は、1年間のみとします。有効な CISSP資格は、CCSPの全経験要件に代えることができます。パートタイムやインターンシップも経験要件にカウントできます。



- **CGRC (Certified in Governance, Risk and Compliance)** :CGRCは、組織が目標を達成し、不確実性に対処し、誠実に行動することを支援しながら、組織内のガバナンス、パフォーマンス管理、リスク管理、規制コンプライアンスを統合する知識、スキル、能力を持つ情報技術 (IT) およびサイバーセキュリティのリーダーを認定する資格です。
 - **必要な経験**: 受験者は、現行のCGRC試験概要に記載されている7つのドメインのうち1つ以上において、フルタイムで累積2年以上の実務経験を有している必要があります。パートタイムやインターンシップも経験要件にカウントできます。
- **CSSLP (Certified Secure Software Lifecycle Professional)** :CSSLPは、セキュアなソフトウェアライフサイクルの各段階に、認証、認可、監査といったセキュリティプラクティスを組み込むための知識、スキル、能力を持つ情報技術 (IT) およびサイバーセキュリティのリーダーを認定する資格です。
 - **必要な経験**: 受験者は、現行のCSSLP試験概要に記載されている8つのドメインのうち1つ以上において、フルタイムで累積4年以上の実務経験を有している必要があります。コンピュータサイエンス、情報技術 (IT)、または関連分野の高等教育機関の学位 (学士号または修士号) を取得していれば、必要とされる経験を最大1年満たすことができます。パートタイムやインターンシップも経験要件にカウントできます。
- **ISSAP (Information System Security Architecture Professional)** :ISSAPは、セキュリティソリューションを開発、設計、分析する高度な知識、スキル、能力を持つ情報技術 (IT) およびサイバーセキュリティのリーダーを認定する資格です。また、組織目標の達成に向けて、上級管理職に対してリスクに基づいた指導も行うことができます。

必要な経験:

- 受験者は、優良なCISSP資格保持者であり、現行のISSAP試験概要に記載されている4つのドメインのうち1つ以上において、フルタイムで累積2年以上の実務経験を有している必要があります。

または

- 受験者は、現行のISSAP試験概要に記載されている4つのドメインのうち2つ以上において、フルタイムで累積7年以上の実務経験を有している必要があります。コンピュータサイエンス、情報技術 (IT) または関連分野の高等教育機関の学位 (学士号または修士号)、もしくはISC2のリストにある認定資格を追加取得することで、必要とされる経験の1年分を満たすことができます。免除される経験期間は、1年間のみとします。パートタイムやインターンシップも経験要件にカウントできます。



- **ISSEP (Information Systems Security Engineering Professional)** : ISSEPは、システムエンジニアリングの原則とプロセスを実践的に適用し、安全なシステムを開発するための高度な知識、スキル、能力を持つ情報技術 (IT) およびサイバーセキュリティのリーダーを認定する資格です。

必要な経験:

- 受験者は、CISSPの資格保持者であり、現行のISSEP試験概要に記載されている5つのドメインの1つ以上において、フルタイムで累積7年以上の実務経験を有している必要があります。

または

- 受験者は、現行のISSEP試験概要に記載されている5つのドメインのうち2つ以上において、フルタイムで累積7年以上の実務経験を有している必要があります。コンピュータサイエンス、情報技術 (IT) または関連分野の高等教育機関の学位 (学士号または修士号)、もしくは ISC2のリストにある認定資格を追加取得することで、必要とされる経験の1年分を満たすことができます。免除される経験期間は、1年間のみとします。パートタイムやインターンシップも経験要件にカウントできます。

- **ISSMP (Information Systems Security Management Professional)** : ISSMPは、サイバーセキュリティプログラムを確立、提示、管理するうえで必要となる高度な知識、スキル、能力を持つ情報技術 (IT) およびサイバーセキュリティのリーダーを認定する資格です。また、優れたマネジメント・リーダーシップスキルを有していることも証明します。

必要な経験:

- 受験者は、優良なCISSP資格保持者であり、現行のISSMP試験概要に記載されている6つのドメインのうち1つ以上において、フルタイムで累積2年以上の実務経験を有している必要があります。

または

- 受験者は、現行のISSMP試験概要に記載されている6つのドメインのうち2つ以上において、フルタイムで累積7年以上の実務経験を有している必要があります。コンピュータサイエンス、情報技術 (IT) または関連分野の高等教育機関の学位 (学士号または修士号)、もしくは ISC2のリストにある認定資格を追加取得することで、必要とされる経験の1年分を満たすことができます。免除される経験期間は、1年間のみとします。パートタイムやインターンシップも経験要件にカウントできます。



- **SSCP (Systems Security Certified Practitioner)** :SSCP は、データの機密性、完全性、可用性を保証するサイバーセキュリティポリシーと手順を使用して、情報技術 (IT) インフラストラクチャを実装、監視、管理する知識、スキル、能力を持つシステムセキュリティ実務者を認定する資格です。
 - **必要な経験**:受験者は、現行のSSCP試験概要に記載されている7つのドメインのうち1つ以上において、フルタイムで1年以上の実務経験を有している必要があります。コンピュータサイエンス、情報技術 (IT)、または関連分野の高等教育機関の学位 (学士号または修士号) を取得している場合は、必要とされる経験を最大1年満たすことができます。パートタイムやインターンシップも経験要件にカウントできます。
- **ISC2準会員 (アソシエイト)** :スキルを証明し、資格取得に向けて迅速に前進するための独自の呼称です。ISC2アソシエイトは、サイバーセキュリティの知識を証明するものです。
 - **必要な経験**:受験者は、最低限の実務経験がなくてもISC2認定試験を受験することができます。合格後は、CISSP、CCSP、CGRC、CSSLP、ISSAP、ISSEP、ISSMP、SSCPの資格取得に必要な経験を積みながら、継続専門教育 (CPE: Continuing Professional Education) の要件を満たす必要があります。

すべての ISC2 認定資格の [試験概要](#) を公開しています。ここでは、各試験で網羅されるドメインの詳細が記載されています。

経験時間の計算方法:

- **フルタイムの経験の場合**:実務経験は毎月積算されます。週35時間以上、4週間以上勤務することで1か月分の経験を積むことができます。
- **パートタイムの経験の場合**:パートタイムの経験は、週20時間以下、週34時間以下とします。
 - 1,040時間のパートタイム=6か月のフルタイム経験
 - 2,080時間のパートタイム=12か月のフルタイム経験
- **インターンシップ**:有給か無給かは問いません。企業・団体のレターヘッドを添付し、インターンとしての立場を確認できる書類の提出が必要です。学校でインターンをしている場合は、事務局の便箋で構いません。



考慮すべきこと

退役軍人の給付金

GI Billを通じて受験料の援助を受ける資格がある場合は、「[退役軍人の給付金](#)」で詳細をご確認ください。

ISC2候補者になる

ISC2 Candidateは、ISC2認定資格の取得やサイバーセキュリティ分野でのキャリアに関心のある方々に向けて設けました。サイバーセキュリティの仕事に就きたいと考えているなら、このプログラムが最適です。サイバーセキュリティの仕事に携わっており、初めてISC2認定資格の取得を目指している場合は、それがエントリーレベルのCC (Certified in Cybersecurity) であれ、経験豊富な専門家対象のゴールドスタンダードであるCISSP (Certified Information Systems Security Professional) であれ、このプログラムは、認定資格取得までの道のりの力強い第一歩となります。

[isc2.org/](https://www.isc2.org/) でアカウントを作成し、my.isc2.org/s/Candidate-Application-Form にアクセスすることで、ISC2 Candidateとしてすぐにご登録いただけます。試験を受ける必要はなく、実務経験も問いません。年会費は、初年度は無料で、2年目からは50ドルとなります。バッジ、割引、アクセス権をすぐに入手でき、サイバーセキュリティのキャリアを追求するための貴重なリソースを活用していただけます。

補足文献

受験者は、知識体系に関連する関連資料をレビューし、さらに注意を払う必要がある研究分野を特定することで、自身の教育と経験を補うことが奨励されます。

補足文献の全リストは、www.isc2.org/certifications/References でご確認ください。



テストセンター

ISC2試験は、ピアソンVUEにより対面式で実施されます。お近くのピアソンVUEテストセンターは、[こちら](#)をクリックして検索していただけます。

ISC2試験の中には、特別な手配が必要なものがあり、下記のテストセンターで受験できない場合があります。特定の試験に関する情報については、ISC2アカウントにサインインしてご確認ください。

インドの受験者の方

Aadhaar IDは、物理的なPVC (プラスチック) カードである必要があります。ラミネート加工された紙のIDは認められません。テストセンターで受験拒否されないよう、[ピアソンVUEのAadhaar IDポリシー](#)をご確認ください。

試験のポリシーと手順

ISC2では、受験者に対し、試験申込み前に試験のポリシーと手順を確認するよう推奨しています。重要な情報となりますので、[ISC2.org/exams](#)にアクセスのうえ、包括的な詳細説明をご一読ください。

受験時における特別な便宜の申請

ISC2では、受験時における環境調整が必要であることを証明した受験者に対して、合理的かつ適切に対応しています。まずはISC2にお問い合わせください。ピアソンVUEのウェブサイトや登録用の電話番号から予約を開始しないよう、ご注意ください。

環境調整をご希望の場合は、「[Examination Accommodation Form](#)」に必要事項を記入のうえ、以下の情報を添えて、**受験申し込み前**にISC2 (examadministration@isc2.org) までお送りください：

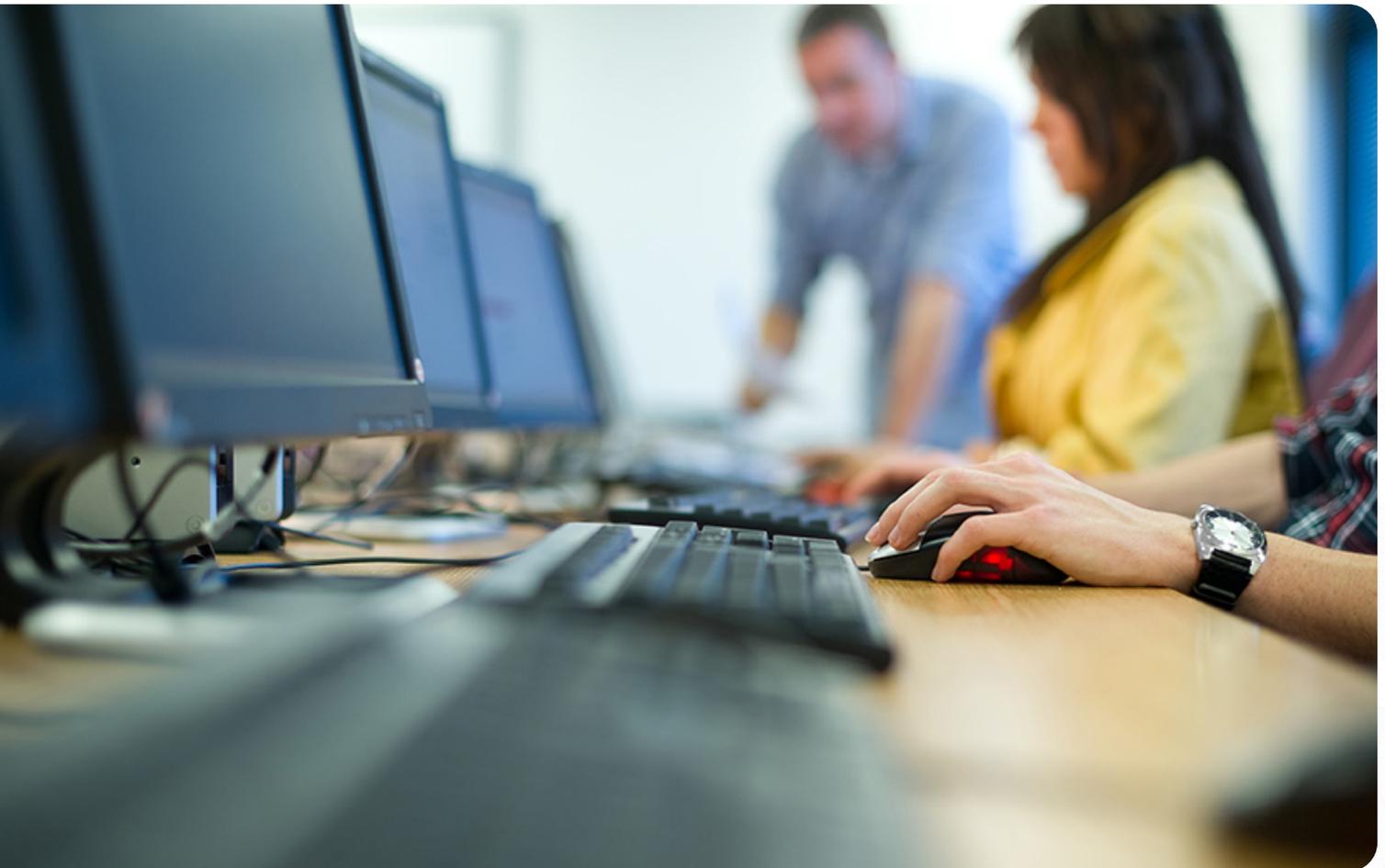
- 必要な調整に関する説明
- 調整が必要であることを裏付ける書類
- 受験を希望する試験
- 試験会場



受験時における調整は、受験時に必要となる旅費や宿泊費を援助するものではなく、また、当協会の認定資格の取得に関連する費用を援助するものでもありません。

受験時における調整は、個別に確認し、状況に合わせて検討します。ISC2により調整が承認され次第、ピアソンVUEの調整担当者へ送付します。ピアソンVUEがこの情報を入手するまで、2〜3営業日かかります。その後、ピアソンVUE (+1.800.466.0450) にご連絡のうえ、試験の日程を調整してください。

受験時の環境調整の目的は、受験者が確実に試験を受けられるようにすることです。成績の向上や試験の完遂を保證するものではありませんので、ご注意ください。





試験について

各試験はコンピュータベースで実施されます。[ピアソンVUEのウェブサイト](#)で、試験体験のデモをご覧ください。ただし、すべての問題タイプと機能がISC2試験に適用されるわけではありません。

試験の形式と採点

試験の採点に関するよくある質問については、[こちら](#)をご覧ください。

サイバーセキュリティ試験に合格するには、700点以上のスコアが必要です。

試験名	試験時間	試験問題数	対応言語
CISSP	3時間	100～150問の多肢選択式および高機能問題タイプ	英語、中国語、ドイツ語、日本語、スペイン語
CC	2時間	100～125問の多肢選択式および高機能問題タイプ	英語、中国語、ドイツ語、日本語、スペイン語
CCSP	3時間	100～150問の多肢選択式および高機能問題タイプ	英語、中国語、ドイツ語、日本語
CGRC	3時間	125問の多肢選択式および高機能問題タイプ	英語
CSSLP	3時間	125問の多肢選択式および高機能問題タイプ	英語
ISSAP	3時間	125問の多肢選択式および高機能問題タイプ	英語
ISSEP	3時間	125問の多肢選択式および高機能問題タイプ	英語
ISSMP	3時間	125問の多肢選択式および高機能問題タイプ	英語
SSCP	2時間	100～125問の多肢選択式および高機能問題タイプ	英語、日本語、スペイン語

注：CISSP、CCSP、CCの中国語試験は、下記のとおり一部の予約期間のみ受験可能です。

CISSP

年間実施期間：3月1日～31日、6月1日～30日、9月1日～30日、12月1日～31日

CCおよびCCSP

年間実施期間：1月4日～2月2日、4月1日～30日、7月11日～8月9日、10月8日～11月6日



ISC2は、世界中のCISSP、CC、CCSP、SSCP試験にComputerized Adaptive Testing (CAT: コンピュータ適応型試験)形式を採用しています。CATは、固定された連続出題形式の試験と同じアウトラインに基づいており、より正確かつ効率的に受験者の能力を評価することができます。CAT受験時の注意点については、[こちら](#)をご覧ください。

試験問題の再確認

ISC2の試験では、受験者は、問題を飛ばして後で戻ることはできず、また、一度解答を確定すると、その解答を見直したり変更したりすることもできません。

高機能試験問題タイプ (AIT: Advanced Item Types)

コンピュータ・ベース試験 (CBT: Computer-based Testing) は、受験者の知識やスキルを評価する新しく革新的な手法を確立し、より信頼性のある評価につながることもあります。CBTは、シナリオベース、多肢選択式、さらには動画ベースの問題など、さまざまな種類の問題を出題できるため、紙と鉛筆 (P&P) で行う試験では評価が困難な構成要素を評価する手段となります。

代替試験問題形式

試験では、多肢選択式の問題だけでなく、他の形式の問題も出題されることがあります。これらの形式には、計算、順序解答、ドラッグ・アンド・ドロップ、ホットスポットなどがありますが、これらに限定されません。すべての問題に、図表などのマルチメディアが含まれる場合があります。

類似試験問題

試験では、試験前半に出題された問題と非常によく似た問題が出題されることがあります。これにはさまざまな理由が考えられます。たとえば、複数の問題が同じような状況やシナリオ、課題に関するものであっても、セキュリティプロセスの異なる段階を扱っている可能性があります。あるいは、予備問題 (採点対象外) が、運用問題 (採点対象) と同様の内容の場合もあります。最初に出題された問題が不正解だったために、それと類似した問題が再度出題されたと考えるのは誤りです。出題された各問題に対して、必ず正解と思う解答を選択してください。すべての試験は、それぞれの試験計画に準拠しています。



試験の申込み方法

- すでにISC2メンバーまたはISC2候補者の方は、アカウントにログインしてください。まだISC2アカウントをお持ちでない場合は、アカウントを新規作成する必要があります。
- [Certification (認定資格)] メニューから、受験する認定試験を選択します。
- 試験の購入オプションを選択し、[Buy Now (今すぐ購入)] をクリックします。
- 試験購入後、アカウントにアクセスして、[Courses and Exams \(コースと試験\)](#) セクションで試験を予約してください。
- 試験の横に表示されている [Schedule (予約)] ボタンをクリックします。
- 「ISC2 Exam Account Information」フォームに記入してください。
重要: テストセンターで提示する身分証明書 (ID) に記載されている情報を正確に入力してください。完全に一致しないと試験を受けることができず、お支払いいただいた費用も返金できません。
- フォームを送信すると、ピアソンVUEのウェブサイトに移動し、試験の予約を確定できます。

予約した試験は、ピアソンダッシュボードと ISC2 アカウントの [Courses and Exams \(コースと試験\)](#) セクションの2箇所に表示されます。

ISC2 試験を受験することで、[ISC2 Examination Agreement \(受験同意書\)](#) を読み、ご自身の義務を完全に理解し、受け入れることに同意したものとみなされます。ピアソンVUEの資格情報を権限のない第三者に公開することは、[ISC2 Non-Disclosure Agreement \(秘密保持契約\)](#) 違反となります。認定を受けている第三者には、受験者、ピアソンVUE、ISC2 が含まれます。ISC2 秘密保持契約に違反した場合、試験結果または認定資格が即時かつ永久に無効となる場合があります。

お問い合わせ先

ご質問等は、ISC2 Candidate and Member Servicesまでお問い合わせください。

- 電話: +1.866-331-ISC2 (4722)、受験者サポートは1を押します
- Eメール: Examadministration@isc2.org



ISC2試験当日までの準備

試験の予約変更またはキャンセル

試験予約完了後、365日以内であれば予約を変更して受験することができます。

注: 予約時間から24時間以内になると、変更はできなくなります。

- 試験の日程を変更するには、ISC2アカウントにログインし、Courses and Exams (コースと試験) にアクセスしてください。
- 試験の横にある [Reschedule (予約変更)] ボタンをクリックします。
- ISC2 Exam Account Information フォームを確認する画面が表示されるので、この情報が正確であることを確認してください。
- フォームを確認すると、ピアソンVUEのウェブサイトに移動します。
- ピアソンVUEのダッシュボードから、予約を変更する試験をクリックします。
- 受験予約の詳細画面で、[Reschedule (予約変更)] または [Cancel (キャンセル)] をクリックします。

ピアソンVUEは、予約変更料として50米ドル、キャンセル料として100米ドルを請求します。最初の試験予定日から365日以内に受験しなかった場合、受験料は返金されません。[ISC2 One Million Pledge](#)に参加されており、Certified in Cybersecurity (CC) 試験を初めて受験する場合、予約変更料はかかりません。

遅刻または欠席

- 試験開始時刻の少なくとも30分前には到着してください。
- 試験開始15分前までに到着した場合、遅刻扱いとなり、指定された座席を失う可能性があります。他の受験者の開始時刻に影響を与えることなく受験できるかの判断は、テストセンターが決定します。
- ピアソンVUEは、遅刻した場合でも対応できるよう努めていますが、対応できなかった場合、受験をお断りさせていただきます。
- 遅刻または無断欠席により受験を拒否された場合、試験結果は、無断欠席としてシステムに表示されます。また、受験料は返金されません。



テストセンターに持参するもの

適切な身分証明書- サイバーセキュリティ試験を受験する際、ISC2では2種類の身分証明書 (ID) の提示が必要です。テストセンターでの受付時、第一身分証明書と第二身分証明書の提示が求められます。ISC2はまた、手のひら静脈認証の提出も義務付けています。ISC2手のひら静脈認証の詳細については、[Palm Vein Scan](#) データシートをご覧ください。

有効な第一身分証明書 (顔写真と署名入りで、有効期限内のもの)

- 政府発行の運転免許証または身分証明書
- 米国国務省発行の運転免許証
- 米国の仮運転免許証 (顔写真と署名入りカードのみ)
- 国民ID、州または国発行の身分証明書
- パスポート
- 米軍ID
- 配偶者および扶養家族向け米軍ID
- 外国人登録証 (グリーンカード、永住ビザ)
- 政府発行の現地言語ID (顔写真と署名入りプラスチックカード)
- 社員証
- 学生証
- クレジットカード*

有効な第二身分証明書 (署名入り、有効期限なし)

- 米国社会保障カード
- デビット/ATMカード
- クレジットカード*
- 第一身分証明書リストにあるあらゆる形式のID

* クレジットカードは、顔写真と署名の両方がある場合のみ有効であり、第一身分証明書として使用できます。有効期限が切れているものは認められません。署名入りかつ有効期限内であれば、すべてのクレジットカードが第二身分証明書として有効です。これには主要クレジットカードのほか、デパートやガソリンスタンドのクレジットカードも含まれます。



インドの受験者の方

Aadhaar IDは、物理的なPVC (プラスチック) カードである必要があります。ラミネート加工された紙のIDは認められません。テストセンターで受験拒否されないよう、[ピアソンVUEのAadhaar IDポリシー](#)をご確認ください。

16歳または17歳の未成年者

未成年の受験者には、テストセンターに保護者が同伴する必要があります。

未成年の受験者には、氏名と顔写真を含む有効な身分証明書を1点提示していただきます。

- 親または保護者は、顔写真と署名入りの政府発行の有効な第一身分証明書を提示する必要があります。
- 親または保護者は、未成年受験者の本人確認のため、Minor-Guardian (未成年後見人) Log Sheetの未成年者の署名の横に署名をしてください。詳しくは、Minor-Guardian Log Sheetを ご覧ください。

注:ISC2の試験を受けるには、16歳以上である必要があります。

注:未成年の受験者の場合、学生証が第一身分証明書として認められます。

知っておくべきこと:

- 身分証明書は有効期限内のものに限ります。
- 原本のみ有効です(コピーやFAXは不可)。
- 第一身分証明書には顔写真と署名が必要です。(写真は、証明書に永続的に貼付されている必要があります)
 - 署名のないものは、政府承認の合法的な公的身分証明書でなければなりません。
- 第二身分証明書には署名が必要です。
 - 署名のないものは、政府承認の合法的な公的身分証明書でなければなりません。



ネームマッチングポリシー

IDに記載されている姓名は、ピアソンVUEに登録する際に使用した姓名と完全に一致している必要があります。受験予約の2日前(48時間前)までは、ご自身の[アカウントにログイン](#)して、名前を確認・更新することができます。試験の48時間以内を過ぎても名前が修正されない場合は、日程の変更をお勧めします。試験日当日の名前の変更(テストセンターでの変更を含む)はできません。試験当日に身分証明書の提示ができない場合は、無断欠席とみなされ、受験料は返金されません。

法律上の名前を変更した場合は、試験当日にテストセンターに証明書を持参してください。書類は原本に限ります(コピーやFAXは不可)。ピアソンVUEが受理できる法的書類は、以下のみとなります:

- 結婚許可証
- 離婚判決文
- 裁判所認定の改名書類

テストセンターに持ち込んではいけないもの

- 武器 - テストセンターでの武器の使用は禁止されています。凶器(または試験責任者が凶器とみなすもの)を持参した場合、それを保管しておくよう求められます。
- ただし、例外があります。法執行機関または警備員として現場で公務を遂行する場合は、武器を携帯することができます。この例外は、試験を受ける予定の警察官や警備員には適用されません。



試験当日

受付プロセス

試験開始時刻の少なくとも**30分前**までには、テストセンターに到着するようにしてください。受付時には、以下のプロセスが必要です：

- 有効な身分証明書を2種類提示する。
- 署名する。
- **手のひら静脈認証**を受ける（法律で禁止されている場合を除く）。この認証フォームに抵抗がある場合は、試験の予約前にExamAdministration@isc2.orgまでご連絡ください。
- 写真を撮影する。マスク、帽子、スカーフ、コートは撮影時に着用できません。また、これらのアイテムは試験会場内での着用も禁止されています。
- 私物は、試験会場の外に保管するようにしてください。安全な保管設備をご利用いただけますが、収納スペースが狭いため、事前に整理しておいてください。ピアソンVUEテストセンターは、私物に対する責任を負いません。

試験監督官 (TA) が簡単なオリエンテーションを行います。その後、TAがコンピュータ端末までご案内します。

秘密保持契約書

試験席に着席したら、3分以内に**秘密保持契約書 (NDA)**を確認し、同意してください。NDAの条件を受け入れずに受験することはできません。NDAに署名していただけない場合、受験は許可されず、受験料も返金されません。



試験補助と休憩

スタッフからの許可がない限り、試験中は立ち上がりず、着席しててください。TAの指示がない限り、コンピュータ端末を変更することはできません。

次のような場合、挙手してTAに報告してください：

- コンピュータに問題があると思われる場合
- ノートボードを変更する必要がある場合
- 休憩が必要な場合
- 何らかの理由で管理者が必要な場合

試験時間には、予定外の休憩も含まれます。休憩時間は、すべて試験時間にカウントされます。TAが試験席をロックしてから休憩に入ることができます。休憩中は試験会場から退出しなければなりません。ただし、建物から出たり、所持品を出したりすることはできません（薬を取りに行く場合など、どうしても必要な場合を除きます）。

休憩を取る際には、休憩前と休憩後に[手のひら静脈認証](#)を受ける必要があります。

試験環境

ピアソンVUEテストセンターでは、多くの種類の試験を実施しています。試験によっては筆答（小論文など）があります。テストセンターでは、隣の受験者がキーボードを打つ音をコントロールできません。タイピング音は、コンピュータ化した試験環境では起こり得ることで、紙と鉛筆の試験環境でページをめくる音のようなものです。耳栓を用意していますので、ご希望の場合はお知らせください。

試験の終了

試験終了後、挙手してTAを呼んでください。TAが試験席をロックしてから休憩に入ることができます。以下の場合は、テストセンターを出る前に必ずTAに申し出てください：

- 試験の実施方法に不正があったと思われる場合
- 試験環境の不備により試験結果に悪影響が出た場合



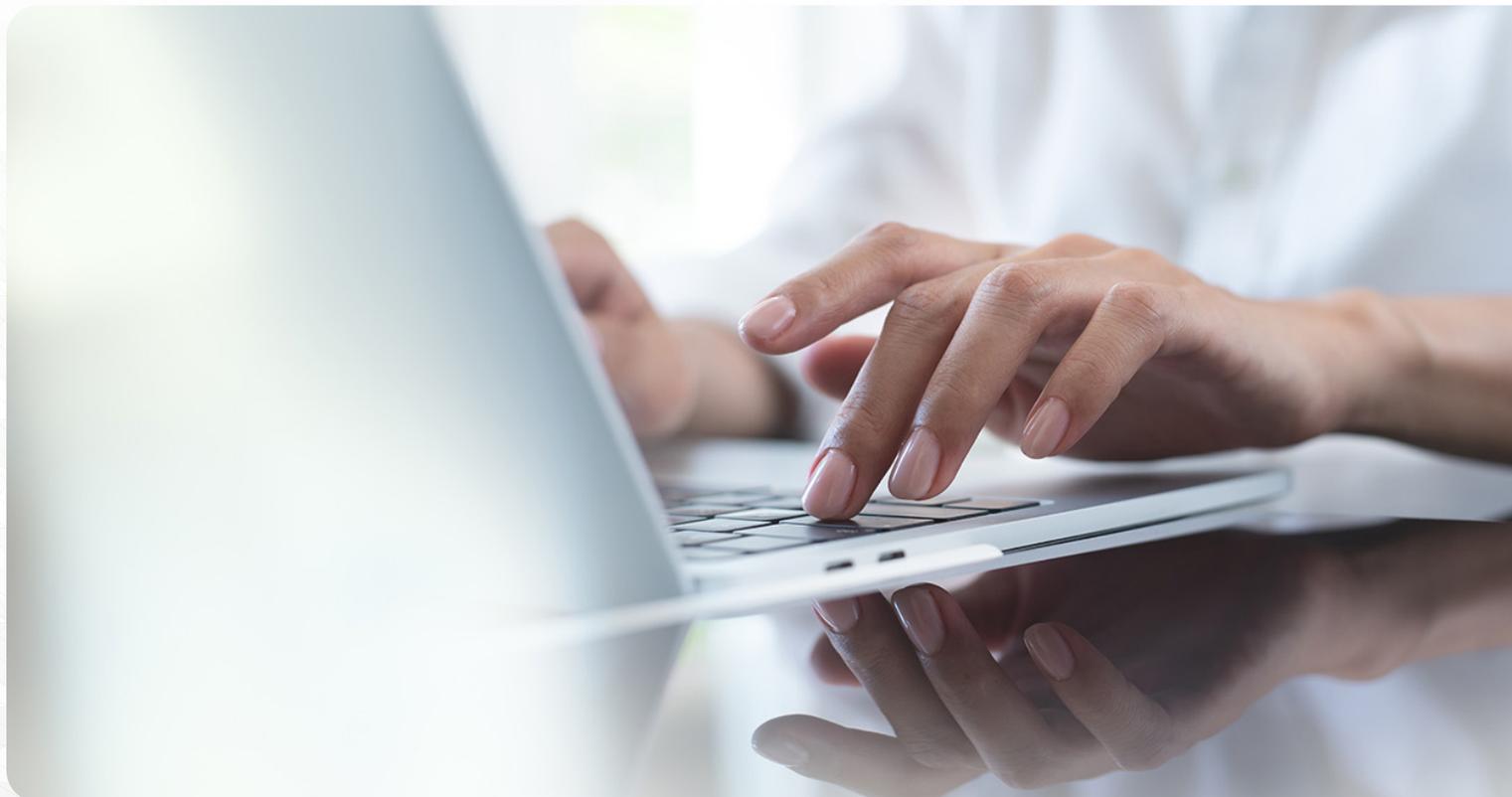
技術的問題

まれにテストセンターに技術的な問題が発生することがあり、サイバーセキュリティ試験の日程変更が必要となる場合があります。

技術的な問題で試験開始予定時刻から30分以上待たされた場合、または試験開始後30分以上中断された場合、待機を続けるか、追加料金なしで日程を変更するかを選択できます。

- 遅延後、予定を変更せず受験することを選択した場合、試験結果はカウントされます。それ以外の申し立てはできません。
- 待機することを選択したものの、試験開始（または再開）前に気が変わった場合、追加料金なしで後日受験することができます。
- 日程変更を希望される場合、または技術的な問題が解決されない場合は、追加料金なしで後日受験することができます。

私たちは、受験者の時間が貴重であることを理解しています。試験前にテストセンターで技術的な問題が発覚した場合はご連絡できるよう、最善を尽くします。





結果報告

結果を受け取る

ISC2では、スコアを公表する前に、スコアデータの統計的・心理学的分析を徹底して行い、合否判定します。この分析を完了するには、最低限の受験者数が必要です。

受験者数によっては、この重要なプロセスを完了させるために、採点が約6～8週間遅れる場合があります。

テストセンターから退場する際に、試験監督官が非公式の試験結果を通知します。正式な結果は、ISC2からEメールでお知らせします。場合によっては、リアルタイムの結果が得られないこともあります。

すべての試験結果は、ISC2の心理測定および法医学的評価の対象となります。この評価は、正式な結果を受領した後に行われる場合があります（実施時期は、受験回数に基づきます。）心理学的・法医学的評価がスコアに影響する場合、ISC2からご連絡します。

電話で試験結果をお伝えすることはありません。このポリシーについて質問がある場合は、試験前にISC2までお問い合わせください。

試験の不正と結果の無効化

ISC2は、試験前、試験中、試験後に不正、詐欺行為、ポリシー違反が疑われる場合、状況を調査し、措置を講じる必要があるかどうかを判断します。ISC2は、該当する受験者の試験を採点しない決定を下したり、該当する受験者の試験結果を取り消したりすることがあります。

ISC2の独自の裁量により、以下の措置を講じる場合があります：

- 取得した資格をすべて取り消す。
- 今後のISC2認定資格の取得を禁止する。
- ISC2 Examination Agreement（受験同意書）に記載のいかなる状況においても、採点を拒否する、または試験をキャンセルする。

不正や不当な行為が疑われる場合は、[こちら](#)からご報告ください。



再受験ポリシー

各 ISC2 認定プログラム (CISSP、CC、CCSP、CGRC、CSSLP、ISSAP、ISSEP、ISSMP、SSCP) では、試験の再受験を規定する 2 つの独立した規則を以下のとおり定めています。

1. 再受験までの間に一定期間を設ける必要があります：
 - 初回受験後：初回の受験から30日間が経過した後に再受験できます。
 - 2回目の受験後：直近の受験から60日間が経過した後に再受験できます。
 - 3回目の受験以降のすべての再受験：直近の受験から90日間が経過した後に再受験できます。
2. 12か月間の受験回数には上限があります：
 - 各認定プログラムにおけるISC2試験の受験可能回数は、12か月以内に4回までとします。

受験者は、複数の認定資格を同時に取得することができます。



ISC2試験の採点に関するよくある質問

質問: 全員が同じ試験を受けるのですか?

回答: いいえ。ISC2では膨大な問題数を保持しており、それらを使用してさまざまな形式の試験問題を作成しています。試験の公正性と機密性を確保するため、試験形式は定期的に更新されます。さらに、常に複数の試験形式を採用しており、受験者には、これらの試験形式をランダムに割り当てています。

質問: 試験形式により難易度が異なりますか?

回答: いいえ。ISC2では、各試験問題の出題形式に関する統計データを活用することで、各試験形式の難易度を評価しています。試験形式による難易度のばらつきを最小限に抑えるために、慎重に試験問題を構成しています。ただし、各試験形式で選択される特定の試験問題の組み合わせによって、難易度に若干の差が生じる可能性はあります。この点については、合格点を設定する際や、試験形式を等化する際に考慮されるため、各受験者がどの試験形式で受験するかは、問題にはなりません。等化とは、等しい難易度で異なる試験形式を心理検査士が作成できるようにする統計的手法です。

質問: 連続出題形式試験の合格点はどのように決まるのですか?

回答: 合格点(「カットスコア」ともいいます)は、内容領域専門家(SME)で構成されるパネルによって設定されます。専門家パネルが各分野の適切な代表となるには、さまざまな地域、民族、実務環境、経験年数を代表する多様なSMEをパネルに迎えることが重要となります。パネルメンバーは、ISC2が管理するSMEボランティアリストから選出されます。このリストは、毎年更新されます。パネルが推奨する合格点に基づき、ISC2理事会のメンバーで構成されるISC2試験委員会(スキーム委員会ともいいます)が合格点を最終決定します。このプロセスでは、パネルは心理検査士の指導の下、試験に合格し資格を取得するうえで必要となる最低レベルの能力について議論します。この議論では、有資格の実務者が持つ具体的な知識、技能、能力に重点を置きます。その後、パネルは試験の各問題を体系的に評価し、難易度の格付けを行います。これらの評価を総合して、特定の試験の合格推奨スコアが算出されます。ISC2では、常に心理測定的に認められた基準設定方法を使用して、すべての資格の合格点を決定します。

質問: 連続出題形式の試験では1000問も出題されていなかったのですが、なぜスケールは0~1000なのですか?

回答: ISC2では、SAT、ACT、GREなど、他の大規模な試験プログラムで使用されるものと類似したスケールを採用しています。試験の問題数よりも、スケールの得点が高く設定されています。



質問：連続出題形式試験のスケールスコアとは何ですか？

回答：スケールスコアは、スコアの意味を歪めることなく、受験者の達成スコアを表す別の手法です。スケールスコアレポートでは、受験者の素点（正答した問題数）が、あらかじめ定義された得点範囲内の数値に変換されます。ISC2の場合、素点はすべて0～1000点のスケールスコアに換算され、合格スケールスコアは700点です。これは、華氏から摂氏、あるいはその逆の温度変換と似ています。たとえば、華氏85度は摂氏29.44度に相当します。この換算では、温度は変わりませんが、使用するスケールによって数値が異なります（華氏85度に対し、摂氏は29.44度）。

質問：スケールスコアの増減は、合否に影響しますか？

回答：スケールスコアを使用することで、受験者個人の合否に影響が出ることはありません。合否判定は常に、正答した問題数と、前述の心理測定的に認められた基準設定方法を用いて設定された合格点との比較によって行われます。合格に必要な正答問題数より多くの問題に正解した受験者は、全員700点以上のスコアを獲得します。合格に必要な正答数を下回った受験者は、スケールスコアは700点未満となります。また、スケーリングは、受験者の順位付けには影響しません。同じ試験形式で受験した他の受験者よりも多くの問題に正解した受験者は、より高いスケールスコアを獲得します。しかし、認定試験では、受験者を順位付けすることではなく、合否のみを通知します。

質問：なぜスケールスコアで採点するのですか？

回答：スケールスコアを採用することで、合格基準が常に同じ（スケールスコア700点）となるため、各試験形式のスコアを直接比較することができます。長い目で見れば、このプロセスによって、ISC2試験の採点がすべての関係者にとって理解しやすいものとなります。受験者がどのISC2資格試験の形式を受験しても、合格スコアは常に700点です。これは、すべての受験者の公平性を維持するために不可欠であり、ANAB ISO/IEC認定資格の基盤となっています。



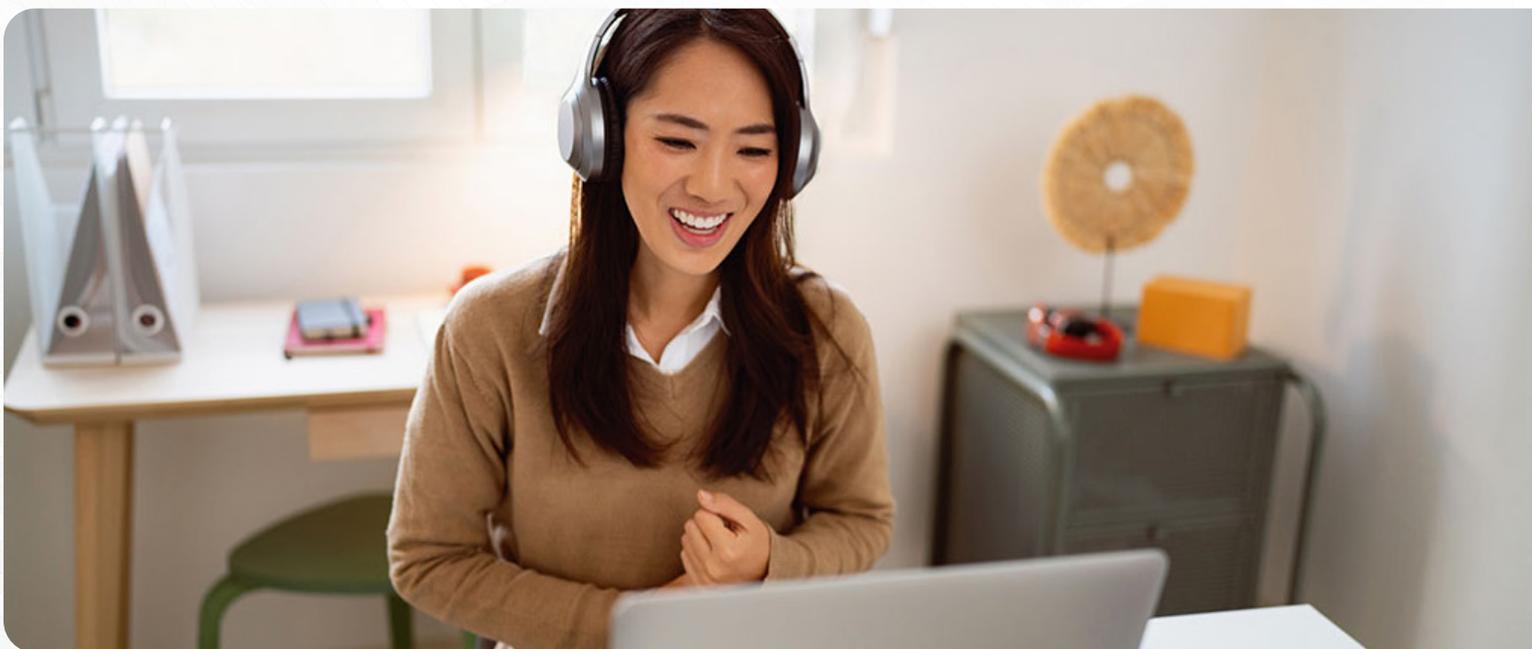
質問: 適応型試験の合格レベルとは?

回答:ここでは「習熟」という用語を使用します。これは、「合格基準」を満たしている、または上回っていると定義されます。試験に合格するためには、受験者は「習熟」レベル以上を獲得する必要があります。合否は、試験で出題されたすべての問題数の合計で算出されます。ISC2試験は、あるドメインで正答数が多い場合、他のドメインの成績が低くても、それを補うことができる補償型試験です。受験者が、試験問題数の多い高比重のドメインで非常に優秀な成績を収め、試験問題数の少ない低比重のドメインで「ほぼ習熟している」、あるいは「習熟度が低い」の成績しか残せなかった場合、合格する可能性はありますが、これを保証するものではありません。試験に不合格となった受験者には、今後の試験対策に活用できる診断フィードバックとして、以下のドメインパフォーマンスが提供されます:

- 習熟度が低い - 合格基準を下回る
- ほぼ習熟している - 合格基準に近い
- 習熟度が高い - 合格基準を上回る

質問: 自分が正答した問題数を知ることはできますか?

回答:ISC2は、正答した問題数や全体の正答率を受験者に報告することはありません。しかし、不合格となった受験者には、試験の各ドメインにおける正答率に基づいて、各ドメインの順位を通知します。この情報は、不合格となった受験者が、さらに学習を進めていく中で重点を置くべきドメインを把握できるよう提供されています。





コンピュータ適応型試験

ISC2は、世界中のCISSP、CC、CCSP、SSCP試験にComputerized Adaptive Testing (CAT: コンピュータ適応型試験)形式を採用しています。CATは、固定された連続出題形式の試験と同じアウトラインに基づいており、より正確かつ効率的に受験者の能力を評価することができます。

その仕組みは？

CAT試験の受験者は、合格基準を大きく下回る問題から開始することになります。

受験者が問題に解答した後、提示されたすべての問題と解答の難易度に基づいて、採点アルゴリズムが受験者の能力を再評価します。解答する問題が増えるにつれて、コンピュータによる受験者の能力推定は、より正確になり、従来の連続出題形式の試験よりも効率的に、受験者の真の能力レベルについて可能な限り多くの情報を収集することができます。

CATに関するよくある質問

質問: コンピュータ適応型試験 (CAT) とは何ですか？

回答: CATは、受験者一人ひとりの能力に合わせた試験問題をコンピュータで配信するものです。固定された連続出題形式の試験とは異なり、適応型試験では、試験中に受験者が発揮した能力に基づいて出題します。すべてのCAT認定試験において、各受験者は、認定試験要綱に記載されている試験内容の要件に従って受験します。各問題の難易度は、受験者の能力を可能な限り効率的に測定できるように最適化されています。適応型試験の一般的な実施方法の詳細なリソースについては、<https://iacat.org/introduction-to-cat/>をご参照ください。

質問: コンピュータ適応型試験 (CAT) はどのように行われますか？

回答: 受験者は、試験を通して各問題が難しく感じることを想定する必要があります。各受験者が受ける問題数は、受験者の能力によって異なります。CAT試験の受験者は、合格基準を大きく下回る問題から開始することになります。受験者が問題に解答した後、採点アルゴリズムは、出題されたすべての問題の難易度と、それらの問題に対する解答に基づいて、受験者の能力を再評価します。各問題が解答された後、問題選択アルゴリズムは、受験者の正答確率が約50%になることを想定して、出題する次の問題を決定します。解答する問題が増えるにつれ、コンピュータによる受験者の能力の推定は、より正確になっていきます。この反復プロセスを通じて、従来の連続出題形式の試験よりも効率的に、受験者の真の能力レベルについて可能な限り多くの情報を収集することができます。



質問:なぜISC2は、従来の連続出題形式から可変長のコンピュータ適応型試験(CAT)に変更するのですか?

回答:ISC2にとってCATへの移行は、認定資格プログラムの将来に対する重要な投資となります。CATの導入は、公平かつ正当で、信頼性が高く、効率的な試験実施プロセスを提供することで、世界中のサイバーセキュリティ専門家の重要な需要に応えるというISC2のコミットメントを強化するものです。

CATは、以下をはじめとする数多くの利点を受験者に提供します:

- 受験者の能力をより正確かつ効率的に評価する
- 試験実施の機会が拡大する
- 試験のセキュリティが強化される

質問:コンピュータ適応型試験(CAT)を利用できるISC2資格試験はどれですか?

回答:世界各国でCAT形式のみで受験できるのは、CISSP、CC、CCSP、SSCPの各試験です。

質問:CATを連続出題形式で受験することはできますか?

回答:いいえ。CAT形式での受験が可能になると、連続出題形式での受験はできなくなります。

質問:CATの受験申込みにはいくらかかりますか?

回答:すべてのISC2認定試験の費用は、[こちら](#)からご確認いただけます。

質問:CAT形式の試験の所要時間は何時間ですか?

回答:CISSPおよびCCSP CATの最長試験実施時間は3時間です。CCおよびSSCP CATの最長試験実施時間は2時間です。ただし、ISC2が事前に承認した医療上の調整が必要な受験者のみ例外となります。最短実施時間の制限はありません。受験者は自分のペースで試験を進めることができます。調整についての詳細は、[こちら](#)をご覧ください。

質問:CAT試験の休憩ポリシーはどのようになっていますか?

回答:ISC2は、受験者の休憩の回数や時間を制限していませんが、すべての休憩は最長試験実施時間に含まれます。



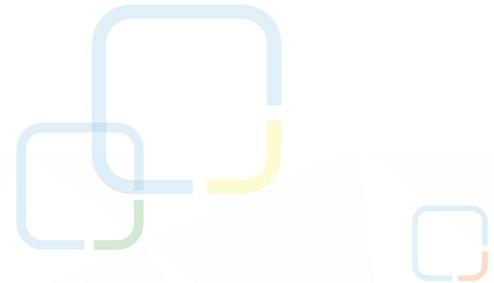
質問:CAT試験では、何問の問題が出題されますか？

回答:受験者には、すべての試験で少なくとも100問出題されます。最大問題数は、CCおよびSSCPでは125問、CISSPおよびCCSPでは150問です。各試験には、最小出題数の一部として、25問の予備問題(採点対象外)が含まれます。予備問題は、今後の試験に含めるかを評価する問題です。

合否の判定を受けるには、受験者は最低75問の運用問題(採点対象)と25問の予備問題(採点対象外)に解答する必要があります。

受験者は、採点対象の問題と予備試験問題を区別することはできません。そのため、受験者は、各問題を慎重に検討し、提示された情報に基づいて可能な限り最善の解答をする必要があります。

試験名	試験問題数
CC	100~125問
SSCP	100~125問
CISSP	100~150問
CCSP	100~150問



適応型試験のため、各ドメインの概念について最低限の習熟度を示せるよう、受験者に合わせて問題が調整されます。

100問で合格した受験者は、全ドメインを通じて十分な概念を習得しており、十分な習熟度を証明することができます。100問で合格しなかった受験者は、合格最低点を達成するために必要な習熟度を十分なドメインを通して示していないことになります。100問を超えた受験者は、一部のドメインで習熟している可能性があります。しかし、追加問題の提示により、他のドメインでの習熟度をさらに証明する機会が得られ、最低合格点を達成できるようになります。

質問:CATの試験問題は、セクション毎に出題されますか？

回答:いいえ。試験問題は、セクションやあらかじめ決められた順序で出題されることはありません。試験問題は、CATの問題選択アルゴリズムにより、試験内容のアウトラインに沿ってランダムに選択されます。各CAT試験の内容は、出題問題数にかかわらず、試験内容の概要に記載されているドメインの比率に従って構成されています。



質問:CAT試験では、問題の見直しは認められますか？

回答:CAT試験は、可変長のコンピュータ適応型試験であり、受験者に提示される問題の難易度は解答済みの問題に基づくため、見直しは認められません。また、一度解答を確定すると、その解答を見直したり変更したりすることもできません。

質問:コンピュータは、どのようにして受験者の合否を判定するのですか？

回答:CAT試験の合格確率は、合格に必要な基準に対する受験者の推定能力のみに基づいています。採点アルゴリズムは、受験者の合否を3つのルールの一つのいずれかを用いて判定するもので、以下の順に適用されます。

1. 信頼区間ルール (Confidence Interval Rule) – 最小出題数 (100問) を満たした後、受験者の能力推定値が統計的信頼度95%で合格点に満たなかった時点で試験は終了します。能力推定値が統計的に合格基準を上回る受験者は、試験結果は合格となります。能力推定値が統計的に基準を下回る受験者は、不合格となります。
2. 最大出題数試験ルール (Maximum-Length Exam Rule) – 最大出題数試験ルールの前に信頼区間ルールが実行されなかった場合、受験者の能力推定値は、合格基準に照らして評価されます。
 - 最終的な能力推定値が合格基準を上回った場合、受験者は合格となります。
 - 最終的な能力推定値が合格基準を下回った場合、不合格となります。
3. 時間切れ (R.O.O.T.) ルール – 信頼区間ルールが最大出題数試験ルール前に実行されなかった場合、受験者の能力推定値は、合格基準に照らして評価されます。
 - 最終的な能力推定値が合格基準を上回った場合、受験者は合格となります。
 - 最終的な能力推定値が合格基準を下回った場合、不合格となります。

試験時間内に運用問題75問と予備問題25問に解答しなかった場合、受験者は自動的に不合格となります。

質問:CAT試験は、認定トレーニングプロバイダーのイベントや試験施設で受験することができますか？

回答:いいえ。ISC2試験は、Pearson Professionalセンター (PPC) および ISC2 公認の Pearson VUE Selectセンター (PVTC Selects) のみで受験できます。現在のISC2認定テストセンターは、<https://wsr.pearsonvue.com/testtaker/find/testcenter/ISC2>からご確認いただけます。



質問:CATの結果は、いつ届きますか?

回答:受験者は試験終了後、すぐに結果を受け取ることができます。不合格となった受験者のうち、必要最低限の問題を解答した受験者には、受験者が苦戦したドメインを共有するための診断フィードバックも提供されるため、次回以降の受験に向けた準備に集中することができます。なお、受験者への合否判定レポートにスコアは記載されません。

質問:受験者は、試験の合否判定レポートでスコアを受け取れますか?

回答:いいえ。受験者は、合否判定において数値化したスコアを受け取ることはできません。不合格者のみ、各ドメインの習熟度が提供されます。

質問:最低限の問題を解答し、最後の問題が「簡単」だった受験者は不合格になるというのは本当ですか?

回答:CAT試験の設計上、受験者はどの問題が簡単で、どの問題が難しいかを確実に特定することはできません。試験の最後に、受験者にはおよそ50%の確率で正答できる問題が出題されます。どの問題が「簡単」でどの問題が「難しい」という判断は、受験者の能力に相対するものです。試験は適応型のため、能力の高い受験者もそうでない受験者も、試験の最後の問題は難しいと感じるでしょう。

質問:合格レベルは?

回答:ここでは、「合格基準」に対する受験者の成績を「習熟度」と定義します。不合格者への試験成績のフィードバックは、以下の3つのレベルを用いて行われます:

- 習熟度が低い – 合格基準を下回る
- ほぼ習熟している – 合格基準に近い
- 習熟度が高い – 合格基準を上回る

質問:試験に合格するためには、全ドメインで「習熟度が高い」と判定される必要がありますか?

回答:いいえ。試験に合格するためには、受験者は「習熟」レベル以上の得点を取らなければなりません。ただし、試験に合格するためには、試験計画の各ドメインで「習熟度が高い」と判定される必要はありません。合否は、試験で出題されたすべての問題数の合計で算出されます。ISC2試験は、あるドメインで正答数が多い場合、他のドメインの成績が低くても、それを補うことができる補償型試験です。受験者が、試験問題数の多い高比重のドメインで非常に優秀な成績を収め、試験問題数の少ない低比重のドメインで「ほぼ習熟している」、あるいは「習熟度が低い」の成績しか残せなかった場合、合格する可能性はありますが、これを保証するものではありません。



質問:採点対象となる75問に不正解だった場合、その受験者の成績は非常に悪いということになるのでしょうか？

回答:必ずしもそうではありません。単に、採点アルゴリズムが受験者の能力が合格基準以下であると95%の確度で判定するために必要な最小限の問題数しかなかったということです。

質問:最大出題数の試験問題を受ける受験者は、無作為に選出されるのですか？

回答:いいえ。問題は、試験内容の概要の仕様に従って実施され、受験者の能力に応じた問題選択アルゴリズムが採用されています。あらかじめ決められた問題数が出題される受験者は、誰もいません。試験問題は常に、過去の問題に対する受験者の解答と、試験内容の概要を満たしていることに基づいて選択されます。受験者の成績が合格基準を上回る、または下回ると95%の信頼度で判定された場合、回答問題数、または試験の経過時間にかかわらず、試験は終了します。

質問:CATを受験するには、どのような準備が必要ですか？

回答:連続出題形式とCAT形式の試験内容の概要と合格基準はまったく同じであるため、受験者は試験の形式によって準備方法を変更する必要はありません。どのような試験形式であっても、受験者は常に適切な時間管理を行い、少なくとも最低限必要な問題には十分な根拠に基づいた解答ができるようにしなければなりません。

受験者は、出題された各問題を難しいと感じることが予想されます。その結果、多くの受験者は、解答した問題の50%ほどしか正解することができなかったと予想するため、試験の出来が悪かったと考えるでしょう。このような心理現象は、CAT試験の受験者に共通して見られます。一方で、ほとんどの固定形式の試験では、受験者に的を絞って効率的に出題できないことから、受験者が正答する割合が高くなります。受験者にとって重要なのは、正解した問題数ではなく（誰もが50%程度は正解します）合格に関係するのは正解した問題の難易度であることを覚えておいてください。



認証資格取得までの道のり

ISC2のサイバーセキュリティ認定資格を取得するには、試験に合格し、経験要件を満たすか、ISC2アソシエイトになる必要があります。

認証申請

試験合格の通知を受け取ったら、[認定申請](#)を開始することができます。もちろん、試験の日程を決定してから認定申請を始めることも可能ですが、合格通知を受け取るまでは申請書を提出できないため、下書きモードでの保存となります。

Certified in Cybersecurity (CC) 試験に合格している場合、実務経験の要件はありません。そのため、申請書には、[ISC2 Code of Ethics \(倫理規約\)](#)とプライバシーポリシーの遵守に関する質問と同意が含まれています。

その他のすべての認定資格については、ご自身の経験を証明できる優良なISC2認定資格保持者からの推薦状を提出する必要があります。ISC2認定資格保持者に知り合いがない場合は、ISC2に推薦してもらうこともできますが、その場合は雇用証明が必要になります。

推薦者には、職業経験に関するあなたの主張が、推薦者の知る限り真実であり、あなたがサイバーセキュリティ業界において良好な地位にあることを証明していただきます。オンライン申請書を記入する際、推薦者の会員番号／認証番号と氏名(姓)が必要になります。

また、関連する職務経験(要件は資格によって異なる)の提出が求められますが、保有資格や取得した高等教育機関での学位に基づく経験免除も可能です。コンピュータサイエンス、情報技術(IT)、または関連分野の高等教育機関の学位(学士号または修士号)を取得していれば、必要とされる経験を最大1年満たすことができます。または、ISC2のリストにある認定資格を取得することで、必要とされる経験を最大1年満たすことができます。なお、学歴または資格によって免除されるのは、1年間の経験要件のみとなりますので、ご注意ください。

最後に、あなたの[経歴資格に関する](#)必須の法的質問に答えていただきます。



申請期限

ISC2 資格認定試験に合格した受験者は、試験日から9か月以内に認定申請手続きを完了する必要があります。

注：試験に合格し、認定申請書を提出した受験者の一部は、無作為に監査対象として選出され、検証のために必要に応じて追加情報の提出を求められます。申請が監査対象として選ばれた場合、Eメールでお知らせします。

ISC2 Code of Ethics (倫理規約) に同意する

ISC2認定を受けたすべてのサイバーセキュリティ専門家は、この資格の取得後、それを維持し続けなければならない特権であることを認識する必要があります。この原則に基づき、ISC2 の全メンバーは、本倫理規約（以下「規約」）を徹底して遵守することが求められます。意図的または故意に規約のいずれかの条項に違反した ISC2メンバーは、ピアレビューパネル（審査委員会）による措置の対象となり、その結果、資格が取り消されることがあります。ISC2メンバーは、ISC2メンバーによる規約違反行為を目撃した場合、倫理申立手続きに従う義務があります。これを怠ると、4規範（Canon IV）に従って規約違反とみなされることがあります。

規約には、4つの強制的な規範があります。必然的に、このような高いレベルのガイダンスは、専門家の倫理的判断を代替するものではありません。

倫理規約の序文：

- 社会の安全と福祉、公益、私たちの主体に対する義務、そして互いに対する義務を果たすためには、私たちが最高の倫理的行動基準を遵守し、また遵守している姿勢を示す必要があります。
- よって、本規約を厳守することが資格認証の条件となります。

倫理規約における規範：

- 社会、公益、社会から求められる信頼と信用、インフラを守る。
- 法律に違わず、公正かつ誠実に責任を持って行動する。
- 規範に則り、真摯かつ適切なサービスを提供する。
- 専門性を高め、維持する。



初回年間維持費を支払う

認証申請が承認されたら、プロセスの最終ステップとして、初回年間維持費 (AMF) をお支払いいただきます。すでに ISC2 認定資格をお持ちの方は、最新の認定資格取得に対して追加の AMF を支払う必要はありません。





認証資格の維持

Continuing Professional Education (継続専門教育)

サイバーセキュリティの専門家になるには、脅威、脆弱性、ベストプラクティスが常に進化しているため、生涯学習に専念する必要があります。CCからCISSPまで、ISC2認定資格を維持するには、継続的専門教育(CPE: Continuing Professional Education) クレジットを取得する必要があります。ISC2では、幅広い[CPE機会](#)を通じて、CPEクレジット取得とプロとしての成長を促進しています。

ISC2 CPEクレジットと活動の管理

どの認定資格を取得しているか、またはISC2のアソシエイトであるかによって、取得すべきCPEクレジット数は異なります。アソシエイトの場合、必要クレジット数は年間15クレジットです。すべての認定資格において、CPE活動は3年間の認定サイクルの間に完了する必要があります。ISC2は、プロフェッショナルとしての能力開発、本業、私生活の健全なバランスを維持するために、[資格維持ハンドブック](#)で毎年推奨事項を提示しています。

年会費 (AMF: Annual Maintenance Fee)

認定メンバーのAMF

ISC2認定メンバーは、毎年認定日の記念日に1回AMFをお支払いいただきます。メンバーは、資格の取得数に関係なく、AMFを1回お支払いいただきます。複数の資格を持つメンバーのAMFは、最も早い資格取得記念日が期限となります。

CISSP、SSCP、CCSP、CGRC、CSSLP、ISSAP、ISSEP、ISSMPの認定資格をお持ちのメンバーの方は、135米ドルのAMFをお支払いいただきます。CC資格のみを保持するメンバーの場合、AMFは50米ドルとなります。

ISC2アソシエイトのAMF

ISC2のアソシエイトは、毎年アソシエイト資格取得の記念日に50米ドルのAMFを支払います。



再認定要件

認定資格またはアソシエイト資格が一時停止された後、資格を復活させるには、ISC2 認定メンバーおよびアソシエイトは、未払いのCPEクレジットをすべて提出し、未払いの年間AMFをすべて支払う必要があります。資格停止は最長2年まで継続できます。2年を経過すると、停止中のメンバーおよびアソシエイトの資格は取り消されます。資格を取り消された認定メンバーが再認定を希望する場合、再認定を希望する資格の各ドメインについて少なくとも5CPEクレジット、さらに主たる業務ドメインについて40CPEクレジット、合計120CPEクレジットを提出する必要があります。資格を取り消されたメンバーが再認定を受けるためのCPE活動は、12か月以内に取得しなければなりません。あるいは、資格を取り消された認定メンバーは、再受験を通じて再認定を求めることもできます。資格を取り消されたアソシエイトは、再受験を通じてのみ再認定を受けることができます。ご質問やサポートについては、ISC2カスタマーサービスまでお問い合わせください。





ISC2会員資格の特典

ISC2は、サイバーセキュリティリーダーのための国際的な非営利会員組織です。私たちは、メンバーが学び、成長し、活躍できるよう支援することに注力しています。私たちは、「安全で安心なサイバー世界の実現」という明確なビジョンを掲げています。ISC2は、サイバーセキュリティ専門家のための世界有数の会員組織です。26万5,000人を超える認定メンバーとアソシエイトが、共通のビジョンを持って専門分野をリードしています。

ISC2 認定資格を取得すると、世界的に認知されたサイバーセキュリティおよび IT セキュリティの専門家の仲間入りができます。多岐にわたる限定リソース、教育ツール、ピアツーピアのネットワーキングの機会、カンファレンス、イベント割引など、ご自身のキャリアを強化する豊富な特典をご利用いただけると同時に、「安全で安心なサイバー世界の実現」という私たちのミッションの達成にも貢献できます。

認証と会員資格の価値

ISC2は、専門家のキャリア全般を教育し認定を行う、世界的な非営利団体として認められています。その高い評価により、当社のサイバーセキュリティ認定、ITセキュリティ認定、トレーニングプログラムは、業界のゴールドスタンダードとして認知されています。

ISC2の認定資格を取得すると、ご自身の専門分野における熟練度を、試験済みかつ証明可能な方法で提示できるので、キャリアアップや新たな専門的成長の機会につながります。

比類のない会員特典

ISC2のメンバーとして、学びと成長は絶えず続きます。ISC2では、継続的な教育や能力開発をサポートする充実した特典やリソースをご用意しており、最新のサイバー脅威、ベストプラクティス、業界の動向を常に把握することができます。

メンバーおよびアソシエイトは、スキルセットの拡大および CPE の取得を可能にするあらゆるリソースおよび限定特典を利用できます。これには、充実した専門能力開発およびボランティアの機会、ピアツーピアネットワーキングやベストプラクティスの共有、ISC2 Security Congress (年次サイバーセキュリティ会議)、専門家認定・表彰プログラム、業界イベントや学習教材の割引などが含まれます。



専門能力養成

サイバーセキュリティは、常に進化し続けている分野であり、継続的な教育が必要です。ISC2認定資格、コース、エクスプレスコースは、サイバー脅威の最前線に立ち、動向を把握する際の一助となります。ISC2のイベントやウェビナーを通じて、対面式、またはオンラインで学び、専門家ネットワークを拡大していきましょう。

CPEの機会

メンバーの皆さんは、私たちのビジョンに不可欠な存在です。ISC2は、豊富な専門リソース、プログラム、特典、サービスを通じて、皆さんの体験をより充実させる方法を常に模索しています。継続専門教育(CPE)クレジットを取得することで、認定資格の更新プロセスを合理化するだけでなく、進化し続けるサイバーセキュリティの分野において、常に知識を最新に保ち、拡大していくことができます。これにより、所属組織のセキュリティと保護が全体的に強化されます。また、多くの雇用主は、自己開発に一貫して取り組む専門家を高く評価しているため、キャリアアップにもつながります。

会員資格の管理

ISC2メンバーダッシュボードには、会員資格に関する最新情報がすべて掲載されています。ダッシュボードでは、認定資格のステータスの確認、CPEクレジットの提出、AMFの支払い、重要なニュースの受信などが可能です。また、ご希望の情報を確実にお届けするために、通信設定を更新し、アカウントを保護するために多要素認証を有効にしてください。



参加、ボランティア、成長

プロとして成長する、ベストプラクティスを共有する、メンターとなる、功績を称えるなど、さまざまな機会について学ぶことができます。

- **試験問題作成者／試験開発者:**ISC2認定資格は、世界で最も高く評価されている資格の一つですが、その理由の大部分は、当社の厳格な試験開発プロセスにあります。ISC2は、急速に変化する専門分野において、認定資格の内容が常に最新かつ適切であるよう、すべての試験を定期的に更新しています。ISC2では、試験開発ワークショップを年間を通じて数回開催し、ISC2が提供するすべての資格認定試験の問題バンクを更新および刷新し、新しい試験形式を作成しています。参加者は、CPEを取得できます。
- **セキュリティ会議:**ISC2 Security Congressに参加し、仲間が集うカンファレンスならではの強力なコラボレーションをご活用ください。この会議は、私たち全員が直面する課題の解決に向け、互いに助け合うことを目的としています。
- **Center for Cyber Safety & Education:**親や子、高齢者にとっての安全で安心なオンライン生活を守るため、地域社会でボランティア活動を行う機会を見つけましょう。さらに、専門分野の学識を身に付け、雇用主と共有できるリソースを取得できます。
- **コミュニティ:**オンラインコミュニティでは、世界中のサイバーセキュリティ専門家と交流することができます。絶えず進化し続けるサイバー業界のニーズと利害に対応するために必要な連携、知識の共有、ベストプラクティスを開発していきます。
- **Chapters:**ISC2 Chaptersは、仲間同士の地域ネットワークを構築する機会を提供します。知識の共有、リソースの交換、プロジェクトでの連携が促進され、CPEクレジットを取得する新たな方法を創造することができます。
- **ISC2 Insights:**ここでは、ISC2の最新情報に加え、世界のサイバーセキュリティの動向や課題、公共政策、技術革新などに関するメンバーの見解を掲載しています。

割引、特典、リソース

トレーニング教材の割引からプロフェッショナルサービスの割引まで、さまざまな会員限定割引や特典をご利用いただけます。



その他の情報

法務関連情報

[ISC2のポリシー](#)に関するご質問は、ISC2法務部 (legal@isc2.org) までお問い合わせください。

お問い合わせ先

ISC2受験者サービス

電話: +1.866.331.ISC2 (4722)、1を押す

Eメール: membersupport@isc2.org

ISC2アジア太平洋地域

電話: +(852) 58035662

Eメール: isc2asia@isc2.org

ISC2米国

電話: +1.866.331.ISC2 (4722)

Eメール: info@isc2.org

ISC2ヨーロッパ、中東およびアフリカ

電話: +44 203 960 7800

Eメール: info-emea@isc2.org

ISC2について

ISC2は、サイバーセキュリティ専門家のための世界有数の会員組織であり、「安全で安心なサイバー世界の実現」というビジョンを掲げています。26万5,000人を超える認定会員とアソシエイトが、善を促進する力となり、私たちの生活を守っています。サイバーセキュリティに関する最高峰の認定資格であるCISSP®をはじめ、数々の受賞歴を誇る当社の認定資格により、プロフェッショナルは、キャリアのあらゆる段階でその知識、スキル、能力を証明することができます。ISC2は、相互接続された世界におけるサイバーセキュリティの安全性とセキュリティを加速させるアドボカシー活動、専門知識、労働力のエンパワーメントを通じて、サイバーセキュリティ専門職の影響力、多様性、活力を強化しています。私たちの慈善財団である[Center for Cyber Safety and Education™](#) (サイバーセーフティと教育のためのセンター)は、サイバーキャリアへのアクセス向上と、最も脆弱な立場におかれている人々の教育に貢献しています。詳細については、[ISC2.org](https://www.isc2.org)をご覧ください。[X](#)、[Facebook](#)、[LinkedIn](#)で、ぜひ私たちとつながってください。